

平成25年4月15日

関係機関長および関係各位

京都大学防災研究所長

大志万 直人

教員の公募について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当研究所は「災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究」を目的とする全国共同利用の研究所であり、5研究部門・6附属研究センターによって構成されています。平成22年度より、「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」に認定され、より広範な共同利用・共同研究を推進しております。

このたび、下記の通り教員を公募することになりました。つきましては、ご多用のところ、まことに恐縮ではございますが、関係各位の皆様方にご連絡いただくとともに、適任者の応募についてよろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. **職 種**： 教授
2. **募集人員**： 1名
3. **勤務場所**： 総合防災研究グループ 巨大災害研究センター 災害リスクマネジメント研究領域
(所在地：宇治市五ヶ庄)
4. **職務内容**：
南海トラフ地震など、来るべき巨大災害の軽減を目指した防災・減災研究を推進する。具体的には、災害の発生前から緊急期、そして復旧・復興期に至る長期的な視点に立って、総合的な災害リスクマネジメントに関する研究、および、災害に対する社会のレジリエンスに関する研究を理論的かつ実践的に推進する。また、京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻の教育を担当する予定である。
5. **資格等**： 博士の学位を有すること。
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
6. **採用予定年月日**： 平成25年11月1日（または、それ以降できるだけ早い時期）
7. **任 期**： なし
8. **勤務形態**： 専門業務型裁量労働制（週38時間45分相当、1日7時間45分相当）
休日：土・日曜日、祝日、年末年始、創立記念日及び夏季休業日
9. **給与・手当等**： 本学支給基準に基づき支給
10. **社会保険**： 文部科学省共済組合、雇用保険及び労災保険に加入

1 1. **応募方法**： 次の (1)~(6) 各一式

- (1) 履歴書
- (2) 研究業績一覧（査読付き論文とその他の論文、著書、解説、報告などに区分けしたもの）
- (3) 主要論文別刷（コピー可）5編
- (4) 研究業績の概要（A4用紙2枚以内）
- (5) 今後の研究計画及び抱負（A4用紙2枚以内、説明図の利用可：これまでの実績を踏まえてどのような研究を行うか、応募者の考えを示すこと）
- (6) 推薦書（または、応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先）

1 2. **書類提出先**：

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付
巨大災害研究センター 災害リスクマネジメント研究領域 教授候補者選考委員会 宛
（封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書し、郵送の場合には書留にすること）

1 3. **応募締切**： 平成25年7月16日（火）【必着】

1 4. **選考方法**： 書類選考のうえ、必要に応じて面接を行います。面接等の詳細は、別途連絡します。

1 5. **問い合わせ先**：

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付
巨大災害研究センター 災害リスクマネジメント研究領域 教授候補者選考委員会 宛
e-mail:apply_staff@dpri.kyoto-u.ac.jp
（封書あるいは電子メールに限る）

1 6. **その他**：

応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。
なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。

巨大災害研究センターの概要

1. 研究目的及び研究内容の概要

巨大災害研究センターは、巨大災害による被害の軽減に関する研究を、自然科学と社会科学を融合した視点から進めています。これは、近年の巨大災害が、自然のハザードに起因する直接被害のみならず、人生や生活の破壊、地域文化に対する打撃、経済被害など、間接被害をも甚大化させている点、すなわち、巨大災害が人間社会を破壊する点を踏まえたものです。

こうした視点にたって設置された巨大災害研究センターは、巨大災害過程研究領域、災害情報システム研究領域、災害リスクマネジメント研究領域、国際情報ネットワーク研究領域（外国人客員）、歴史災害史料解析研究領域（客員）、地域災害研究領域（客員）、以上6つの研究領域を有し、総合的、学際的、かつ長期的な視点に立った防災・減災研究を推進しています。

巨大災害過程研究領域

本研究領域の研究テーマは、「総合減災システムの確立と実践的防災学の構築」です。安全・安心な社会を実現するために、巨大災害による被害を軽減するための研究を、社会科学・自然科学を融合して行っています。特に、社会科学（社会心理学を中心として）の立場から、災害情報、防災教育、災害文化のあり方を提案し、真に「実践的な」防災学とは何かを探っています。

災害情報システム研究領域

社会現象としての災害学理の究明と、効果的な防災の実現を目標としています。とくに、災害発生後の社会の対応を情報処理過程としてとらえて、効果的な災害対応を可能にするための社会のしくみの構築・情報システムの開発を目指して、災害時の人間の心理過程や行動の理解、防災担当組織の効果的な対応、地域社会全体の災害からの立ち直り（レジリエンス）という3つの領域で実証的に研究しています。

災害リスクマネジメント研究領域

本研究領域は、巨大災害がもたらす被害の軽減を理工学と社会科学が協同して取り組むべき研究課題としてとらえ、そのための研究をリスクマネジメントの観点から行っています。また、この研究課題を、都市や地域、国土などの総合的なリスクマネジメントの一環と位置づけ、学際融合的かつ国際的な研究領域として発展させることを目的として多角的な研究を推進しています。

このほかに、下記の2つの客員部門と1つの外国人客員部門があり、上記の3研究領域でカバーできない研究領域を有機的に補完する活動を担っています。

歴史災害史料解析研究領域（客員）

地域災害研究領域（客員）

国際情報ネットワーク研究領域（外国人客員）

2. 現在の教員構成

平成25年4月1日現在の教員構成は以下のとおりです。

巨大災害過程研究領域：	教授 矢守克也 准教授 (人事申し出中) 助教 鈴木進吾
災害情報システム研究領域：	教授 林 春男 准教授 牧 紀男
災害リスクマネジメント研究領域：	教授 (今回公募) 准教授 横松宗太
情報ネットワーク研究領域：	(外国人客員教授) Robert OLSHANSKY
歴史災害史料研究領域：	(客員教授) 吉越昭久 (客員准教授) 八ッ塚一郎
地域災害研究領域：	(客員教授) 渥美公秀 (客員准教授) 畑田朋彦

共同利用・共同研究拠点について

個々の大学の枠を超えて、大型の研究設備や大量の資料・データ等を全国の研究者が利用したり共同研究を行う「共同利用・共同研究」のシステム、全国共同利用研究所として、防災研究所は共同利用や共同研究を推進してきましたが、平成20年7月に創設された、文部科学大臣による「共同利用・共同研究拠点」の認定制度により、平成22年度からは、新たに「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」として共同利用・共同研究を推進しています。

なお、京都大学防災研究所の詳細は下記のホームページをご参照下さい。

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>